

ミカン生育情報

千葉県
平成 24 年 10 月号

平成 24 年 9 月の気象

平均気温は、全ての半旬で平年より 0.2～3.0℃高く、特に第 4 半旬は 25.6℃で平年より 3.0℃高かった。月平均気温は 24.2℃で平年の 22.8℃より 1.4℃高かった。

降水量は第 1、2、3、6 半旬では平年より少なく、第 4、5 半旬は平年より多かった。月合計は 197mm で平年より 50mm (20%) 少なかった。

日照時間は、第 2～4、6 半旬は平年より多く、第 1、5 半旬は平年以下であった。月合計は 188 時間で平年より 42 時間 (29%) 多かった。

表 1 平成 24 年 9 月の気象 (暖地園芸研究所)

半旬	平均気温 °C		降水量 mm		日照時間 hr	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	25.1	24.9	25	26	27	31
2	25.9	24.2	5	44	46	28
3	25.5	23.5	27	30	48	25
4	25.6	22.6	64	43	28	22
5	21.6	21.4	62	50	15	20
6	21.6	20.3	15	54	25	20
平均/合計	24.2	22.8	197	247	188	146

果実及び樹の生育

産地及び暖地園芸研究所における本年度の温州ミカンの着果量は早生温州、普通温州とも昨年より少なく、園地や樹によるバラツキがある。日焼けの発生は少ないが、乾燥による落葉が見られる園がある。

9 月下旬における各調査地の果実の生育を表 2 に示した。横径、縦径の平年比は早生温州がそれぞれ 93%、98%、普通温州がそれぞれ 93%、96%、川野夏柑がそれぞれ 96%、99% で、いずれも平年をやや下回った。

生理障害、病虫害の発生

病虫害では果樹カメムシ類の発生が非常に多く、ミカンハダニの発生がやや多い。

表2 果実の生育（平成24年9月26日）

品種	調査地	横径 (cm)	縦径 (cm)
興津早生	三 芳	5.7 (96)	5.0 (104)
	千 倉	5.5 (92)	4.4 (91)
	暖地園研	5.4 (91)	4.8 (98)
大津4号	三 芳	5.8 (93)	4.6 (96)
	千 倉	5.9 (91)	4.4 (93)
	暖地園研	5.6 (89)	4.3 (90)
青島温州	三 芳	5.9 (96)	4.8 (99)
	千 倉	6.1 (98)	4.9 (102)
	暖地園研	5.7 (92)	4.4 (92)
川野夏柑	暖地園研	7.6 (96)	6.5 (99)
早生温州 (平均値) *		5.5 (93)	4.7 (98)
普通温州 (平均値)		5.8 (93)	4.6 (96)

() の数字は平年値（平成6～23年の平均）を100とした比数

* 早生温州：興津早生3調査地の平均

普通温州：大津4号、青島温州3調査地の平均

9～10月の栽培管理

浮皮症の軽減対策 秋季の高温、多雨は浮皮症が発生しやすいので、防風垣を刈り込んで通風を良くし、排水対策を講じて園地の乾燥に努める。また、浮皮になりにくい下垂した果実を残し、上向きの大玉果を摘果する。

樹上選果 収穫直前まで園地を見回り、大玉果、小玉果、傷果、病虫害被害果などの商品性が劣る果実を摘果する。

早生温州の収穫 着色の良好な果実から順次収穫していく。収穫時のハサミ傷や落果は収穫果実の腐敗の大きな要因となるため、果実はていねいに扱う。収穫直後の果実は果皮の水分が多いので出荷予措を行う。コンテナに果実を7分目ほど入れ、風通しのいい日陰に2～3日置くと、果皮がしなやかになり、選果や出荷時の傷果の発生予防になる。

秋肥 樹勢回復、耐寒性向上、翌年の花芽分化を高めるため秋肥を施用する。施肥時期が早過ぎると着色の遅れや浮皮果が生じ、遅くなると低温となるため吸収が悪くなる。また、乾燥の影響で樹勢が落ちた樹は、収穫後直ちに窒素主体の液肥を葉面散布して樹勢の回復を図る。

病虫害の防除 10月中旬～11月上旬には、貯蔵病害である青かび病、緑かび病の防除を行う。ミカンハダニやカメムシ類は発生に応じて防除を行うが、農薬の使用基準にある収穫前日数に注意し、千葉県農作物病虫害雑草防除指針を参考に行う。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話 0470-22-2961
果樹の生育情報は千葉県ホームページ「農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>